

## 「2018函館マラソン」準備状況

～ はじめに ～

函館マラソン事務局です。

皆様、来年7月1日（日）に、「2018函館マラソン」開催の運びとなりました。

函館マラソン大会実行委員会では、フル化後2回にわたる開催実績を基として、それでもなお数多くの問題や課題が残されている状況などを冷静かつ客観的に分析しながら…最終的には次回の大会がより多くのお客様にお喜びいただけるものとなるよう、目下全力で各種のチューニングに努めているところであります。

「神は細部に宿る」という名言がありますね。

マンパワーを含め我々の手許にある経営資源は限られておりますが、それでもなお八方向を尽くせば「できる」と思いきことは限界までチューニングする。そのような覚悟で取り組んでまいります。

…とはいえこの作業、結構大変です。

まず、諸々の協議には「相手」が居ます。また「費用」の関係もあります。そして多くのランナーからお寄せいただいた「ご要望」の中には、見解が真逆のものもありますので…フル化2回の開催実績を経てしても悩み多き日々ですね。

でもまあ函館マラソンにご参加をいただいた経験のある方には「前より成長してる！」と喜ばれ、初めての方にとっては参加することが「憧れ」となるような大会となるよう、これはもうまっすぐに進んでいくしかありませんね…何しろそうした努力の先には必ずや「日本一」の栄誉が待っていると信じておりますのでふふ。

…ということで、これまでと同様に諸々のコトの進捗状況を、これもまたいつものながらの筆致でこの場にだらだらと書き込んでまいりますね。ですから皆様方におかれましては、これはもう定型句となりましたが、普段の練習の「脚休め」の場として、まったりとしながらそうした諸々の成り行きをお楽しみいただければ幸いに存じます。

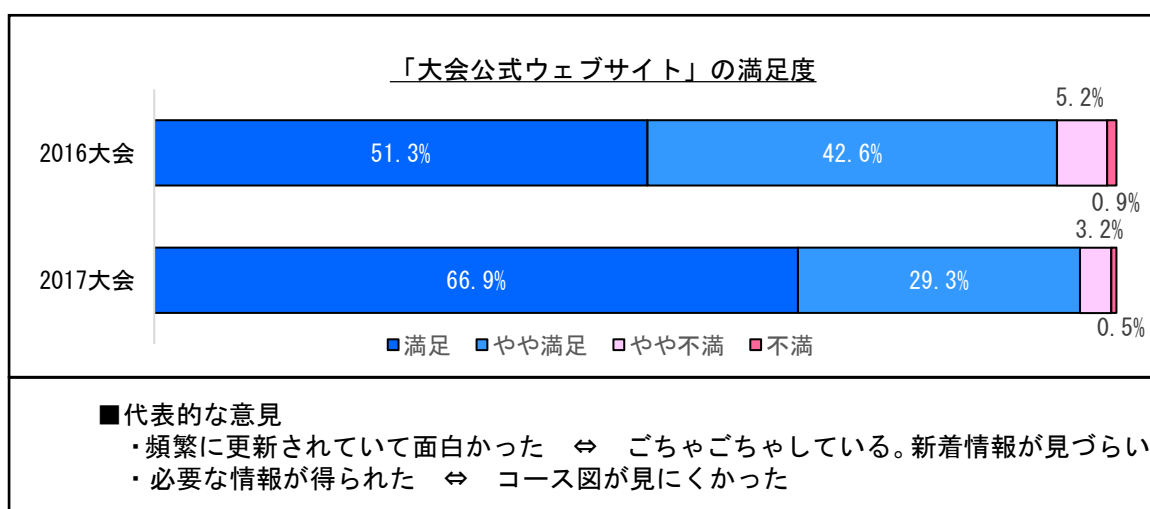
なお今回は、この散文の更新頻度や回数がどのようなものになるのか全く見通せない状況であるということを含め申し添えます（要するに不定期配信ということです。「相手」や「費用」、「要望」など諸事項をクリアしたものしかアップできませんので…）。

さあ、「2018函館マラソン」準備状況、スタートいたします。

～ 第1回 「公式ウェブサイト」について ～

函館マラソンの改善策として最初にあげる項目が「公式ウェブサイト」というのも何ですが…。

実は「函館マラソン」サイト、今年の大会からフェイスブックを実装したりインターフェイスを見直すなど諸々の工夫をしてみたりしました。しかしながら思いとは裏腹に、アンケート（※17大会参加者アンケート）を見ると内容はともかくとして「見にくい」の声が大きくて。



「見にくい」の最大の理由ですが、大会関係の様々な情報発信を行ってきた我等のウェブサイト、開設以来さまざまな情報をどんどん「増改築」しながら膨らませてきたことから、自分でも全容を把握できず戸惑うことの多い状況なのであります。ですからまずはそうしたコンテンツの精査が必要です。

また、スマホなどで情報を取得する方の比率がどんどん高まっている中、デザインなどの全面的なリニューアルを行うことで、より手軽に必要な情報を入手できる、そんなウェブサイトとしたいと思っております。この辺は拙文が代表格ですね。わかってます。ページ数も多いし長文だし自分でもどこに何を書いたのかもおぼろげで…ね。

ということで、それやこれや諸々への適切な対応と、実のところ我々素人には取り扱いが難しく、更新も一筋縄では行かない現行の管理システムの改修なども含め、当ウェブサイト全般のリニューアルを実施いたします。エントリー検討のための情報収集にも、当日に向けた準備にも対応する、皆様のお役に立てるウェブサイトに生まれ変わりますので、2018年1月中旬の公開をお待ちください。

## ～ 第2回 「ゴミ問題」の解決について ～

改善すべきところは沢山ありますね。その一つが「ゴミ問題」。正直に申し上げてコース上にスポンジや紙コップが散乱しているというのは、少なくとも嬉しい風景ではありませんね。何しろ美しい景観を誇る函館で開催されるマラソンなのですから、そんなのは解決しなければダメです。

とはいえ費用の関係もあってゴミ箱を大量かつ無計画にコース上に配置するというわけにもならないなか、8千人規模の大会となって間もない当マラソンは、その辺を最適化するノウハウが少ないこともあって…実は過去2回にわたり惨憺たる状況を呈してきたのであります。

「ゴミ箱なんざカネをかけてたくさん置けばいいじゃないか？」と仰る方も多いのですが、そのお金、どうせ使うのならばフードの充実など大会自体の発信力や魅力の向上に繋がる部門に投入したいものだ…などと、悶々としておりました。

そんなときに救世主登場。この案件、地元経済会の新ドンに相談したところ「ゴミ箱だろ？」、「段ボールなら組み立ても簡単だしいいよな」、「オレ、段ボール屋さんの社長を知っているから、その人に頼んでみるわ〜」。そして後日、「言っておいたから」と。

実は私にとっては何だか懐かしき思い出のあるその(株)ホリカワ社、私が高校1年の多感な頃、一夏の経験…いえいえ夏休みの間アルバイトをしていた会社なのであります。なんと奇遇。

で、その会社との打ち合わせの際のこと。社長氏に対し、自分はひと月ものあいだ御社でバイトをしていたので段ボールの製造工程を一通り覚えていること、工場の主的な怖いおじさんがいたこと、若くて剽軽な事務員さんがいたこと、勝ち気な女性の事務員さんと工場勤務のキレイな女性との間で冷戦があったこと…などを丁寧に説明し、結果、大量のゴミ箱のご提供に加え風倒防止策や雨対策のアイテムも含めて「ご協賛」いただけることになったのであります。

あとは配置と回収の工夫だけです。この点、メガマラソンにおけるゴミ対策を勉強してまいります。18大会の当日は、ランナーの皆さんもホリカワ社オリジナルデザインとなる予定のゴミ箱を大いにご活用いただきたく、よろしく願いいたします！



来年は「キレイに」、「気持ちよく」を皆で追求したいと思います！

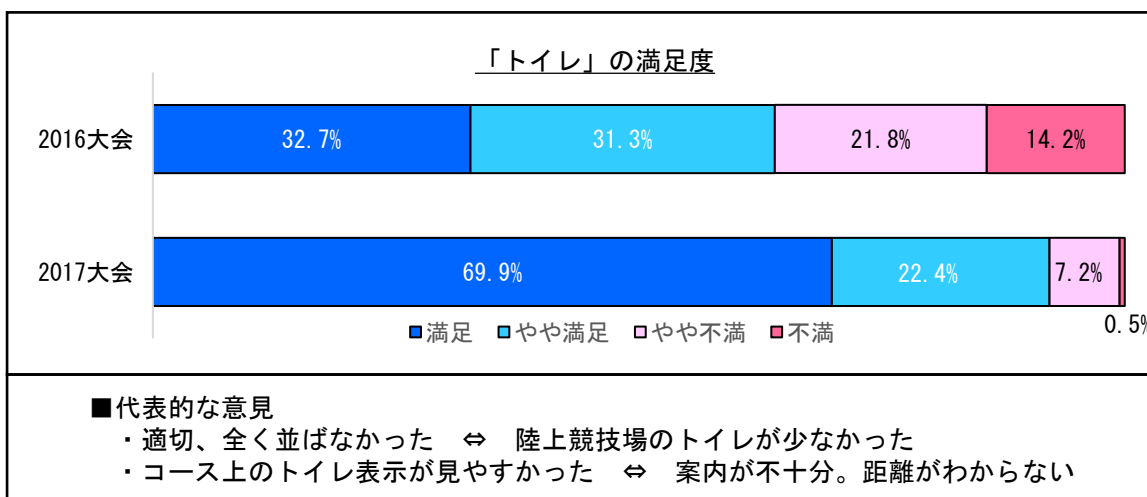
～ 第3回 「トイレ問題」の解決について ～

16大会の開催を通じて多くの方からご指摘をいただいた「トイレ」について。17大会に向けては控えめに「60基ぐらい増やしましょうか？」という担当くんの声を押しつけて、何の根拠もなく「純増100基だ！」とハッパをかけ臨んだのであります。

このトイレ。やはり頼りになるのは経済界の重鎮。前回、この場に登場した新ドンに相談したところ、「トイレ？なんもなんもオレのところであまくやってやるから」、「心配すんな」というあたたかいお声がけをいただいて安心したのであります。

事実、氏の会社からはお金に換算するととんでもない額の役務提供をいただき、見事その100基が函館マラソンのコース上と、スタート・フィニッシュ地点に並ぶこととなりました。

で、17大会は、ことトイレに関しては「もう大丈夫だよな」と安心しておりましたが、参加者アンケートを見ると↓↓↓

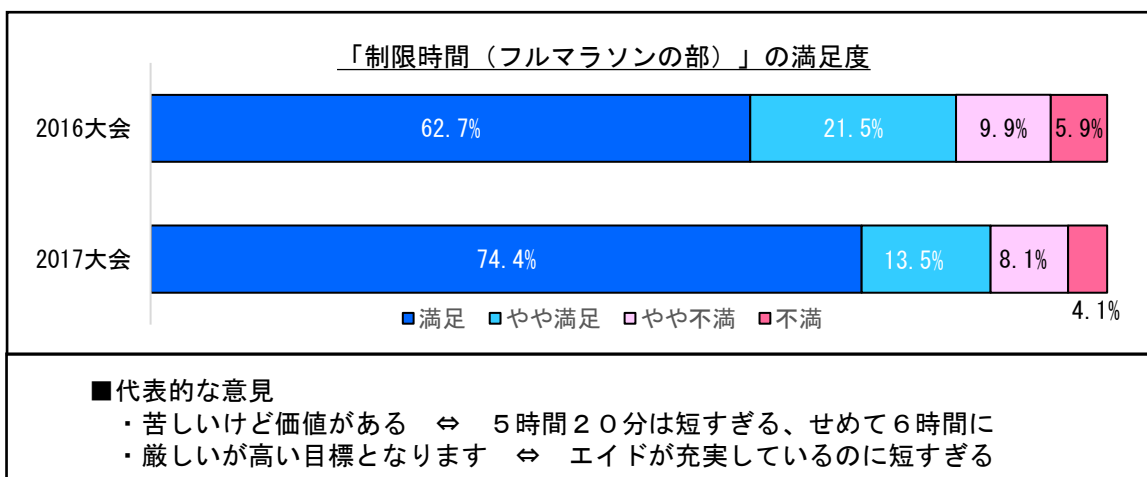


…と、多くの方に喜んでいただいた一方で、スタート前の段階でトイレ待ちの行列ができたことから少なからぬマイナス評価が発生したのであります。千代台公園内のトイレの総数は、昨年に比して仮設分が16基増えたこともあって、十分に間に合うと算段していたのであります。

このような状況を踏まえ、18大会ではトイレの数（および質）のさらなる充実を図ります。かかる費用は…再度新ドンに相談いたします。このほか17大会では比較的空いていた陸上競技場と野球場のトイレの利用を促す（※新たに「トイレ案内人」を配置予定！）とともに、コース上トイレについても混雑時の案内充実を図るため「次のトイレまで〇キロ」という表示を加え、皆様の安心感の醸成に努めたいと思っております。

～ 第4回 「制限時間」について ～

函館マラソンのフルの部の制限時間については、17大会においてコースの拡幅や10分間時差式スタートを実施したこともあったからでしょうか、アンケートをみると昨年よりも満足度が高まっております。一方で自由記載をみると、フルの部については16大会と同様に「厳しく」「苦しい」とのご意見を数多く頂戴しております。



このような状況は、過去2回の開催「実績」を踏まえたうえでの「評価」ですから、実行委員会としては、これはもう何とかして「苦しい」を低減できないものかと様々協議してまいりましたが、そちらも「実績」が必要だということと相成りました。

その「実績」とは…実は17大会では、あの高温多湿のなか、終盤でリタイアされた方が頻出したことにより整理誘導に予想外の時間を要し、結果、交通規制時間が約10分間延伸してしまったのであります。地方都市とはいえ、まちなかを走る都市型マラソンを開催するうえで、この10分超過は大きな「負の実績」となりました。

ただ、18大会では17大会で生じた様々な事象に対応し、少なくとも予定時刻内に終わることができるよう様々な改善策（※関門の設置場所の変更など）を展開いたします。また、そのうえで17大会の「負の実績」をもとに交通規制時間を10分間延長していただくことでリスク管理の万全を期するものであります。

要するに18大会では、まずは競技を定刻どおり滞りなく運営して「負の実績」をゼロへと転化させる。そして、そこで得られた定刻運営の成果をもとに次のステップへと進んでまいりたいということです。

講じた策が上手くいけば、少なくとも19大会では18大会において設定する交通規制時間とイコールの制限時間、即ち「5時間半化」は叶うものと考えております。歩みが遅いぞとお叱りを受けてしまいそうですが、市民をはじめ多くの方にご理解をいただいでこそそのマラソンです。この辺の所作に近道はないので一歩ずつ歩いてまいります。

～ 第5回 「参加記念品」について ～

今年の参加記念品は「BUFFで行くぞ!」と、この私が最終決定したこともあって、私のもとには知人などからその賛否が直接届く状況となっております。ただ、各人からは6:4ぐらいの割合で否定的見解が多く寄せられるのとは裏腹に、参加者アンケートの結果をみると「良かった」の声を数多くいただいております。



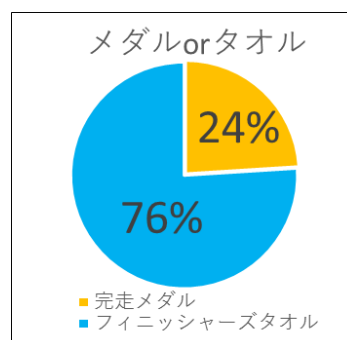
2017 函館マラソンBUFF着こなしコンテスト!?

とはいえ、ランネットの「大会レポ」の記念品の項目で今回★を0.5落とした(※16大会★4.0→17大会★3.5)ことや、正直に申しあげてBUFFのような高額品を採用し続けることは難しいこともあり大いに悩んでおります。このような状況ゆえ「18大会の記念品をどうしよう?」と悩む我がスタッフからの問いかけに対しては、「みんなで決めろよ(うんうん)」などと逃げを打っている昨今なのであります。

で、どうしたものでしょうね。

参加記念品という流れでいえば、公式フェイスブックへのコメントなどを通じて「完走メダルが欲しい!」というアツいご期待が何度も寄せられていることは認識しております。ただ、完走メダルもフィニッシャーズタオルも…両方欲しいといわれても、これは事業としてのマラソンを考えると、収支が良好な大会であれば「両方出す!」と大盤振る舞いできるのですが、函館マラソンの場合は「まだ」無理です(断言します)。

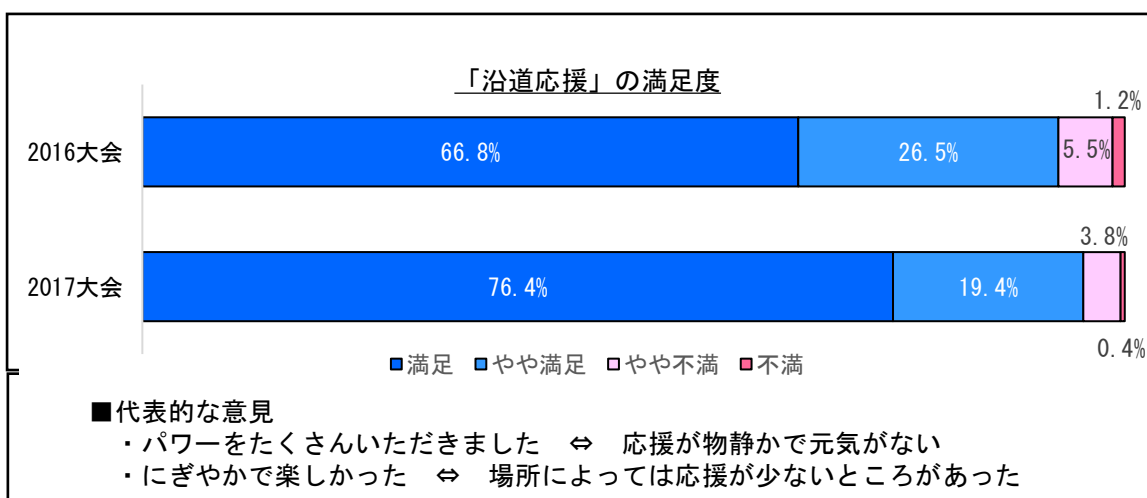
そこで、今大会のアンケートでは「完走メダルとフィニッシャーズタオルのどちらが良いか」という設問を用意いたしましたが、結果は圧倒的に「フィニッシャーズタオル」(※両者を比較すると完走メダルが24%、フィニッシャーズタオルが76%)となりましたので、どちらを選択するかと問われたら、もちろんフィニッシャーズタオルとなります。これが多くのランナーからの「声」を可視化した結果ですから、みなさまご理解ください。ということで参加記念品ですが…さあどうしたものか(たぶん年が明けてもしばらくは悩み続けると思います)。



～ 第6回 「沿道からの応援」の向上について ～

函館マラソンの応援のレベルはどうなんだろう？などと思っても、それを定量的に測定するのは難しいですよね。で、そんな時に頼りになるのが参加者の皆さんからの声です。

アンケートやランネットの「大会レポ」をみると、「応援に助けられた」、「元気を貰った」と多くの方から好評の声が寄せられ、満足度は昨年よりアップしました。その一方で、「物静か」、「少ない」というご意見が散見される状況でありまして…。



でもまあ、9割5分以上の方にご満足をいただいているんだから、これはこれでよし！と、さらりとスルーしてしまおうとかと思いましたが、なんと驚愕の事実が判明。

それは今回導入した10分間時差式スタートを検証するためコース上を撮影したビデオを確認した際のことで、その映像には、

- ①沿道には沢山のギャラリーが詰めかけていて、ランナーの到来を待っている状況
- ②ハーフの先頭が到来～ハーフの大群衆が到来
- ③ハーフの最後尾が通過～同時にフルの先頭が到来

と、一連の状況が克明に撮影されているのはもちろんですが、なんとビデオですから「音」も入っているわけでして。

で、上記の②と③の映像にはギャラリーからの大歓声が記録されていると思いきや…聞こえてくるのはランナーの足音と、信号機の「ピッ、ピッ」という無機質な音と、そして若干の「ガンバレ」の声のみ…もしかして函館の人って応援に慣れてないのかな？？

そこで18大会では今年の「メガホン」に続く応援アイテムの第二弾・第三弾を積極的に導入いたします。費用は…もちろんスポンサーさんのロゴを入れて…ね。

(ということで、今年はこちらにて失礼させていただきます。皆様よいお年を！)

～ 第7回 「宿問題」への対応について ～

皆様、あけましておめでとうございます。

さて、本年7月1日の日曜日に、フルの部は3回目、ハーフの部では実に28回目となる「函館マラソン」が開催の運びとなります。いよいよですね！ということでここをご覧の御一同様には新年早々からのお願いです…18大会こそは初夏の北海道らしい爽やかで過ごしやすい天候となるよう、さあ、これから毎日念じてまいりましょう！

それはさておき…(いきなり話題は一転しますが)函館マラソンへの参加を検討するとき、とりわけ遠方からお越しの方にとっては宿泊施設が確保できるか否かが最重要課題となりますね。17大会ではこの点で多くの皆様にご心配をおかけいたしました。

このような経過を踏まえ、18大会では函館マラソンのシルバースポンサーであり宿泊のオフィシャルサプライヤーであるJTB北海道が旗振り役となり、ホテル・旅館業の組合、旅行会社各社および市内資本の旅行会社が一堂に会し「函館マラソン宿泊問題解消策検討会議」が開催され、この間、18大会に向けた宿泊対策が討議されてまいりました(※この辺のことは以前お知らせしていたとおりですが…あえて再掲しますね)。

今回は、その進捗状況をお伝えいたします。

- 1 JTB北海道が予約開始段階までにランナー向け客室を2千室規模で確保  
→ 対策済み
- 2 旅行業各社が連携、客室融通と各社の強みを活かした商品を開発・販売  
→ 対策済み
- 3 市内資本旅行会社とも連携、JTB未契約施設を客室確保・販売  
→ 対策済み
- 4 宿泊業界団体(函館ホテル・旅館協同組合、函館湯の川温泉旅館協同組合)と連携、客室の早期リリース&値頃感のある価格設定となるよう調整を促すほか「相部屋プラン」など多様なニーズに対応できる商品開発を促進  
→ 対策中
- 5 マイカーで転戦する道内ランナー向け商品として、安価+駐車可+会場までのシャトルバス付きプランの開発促進・販売  
→ 対策中(船舶を活用した「前夜祭」の開催&休憩スペースの提供検討)

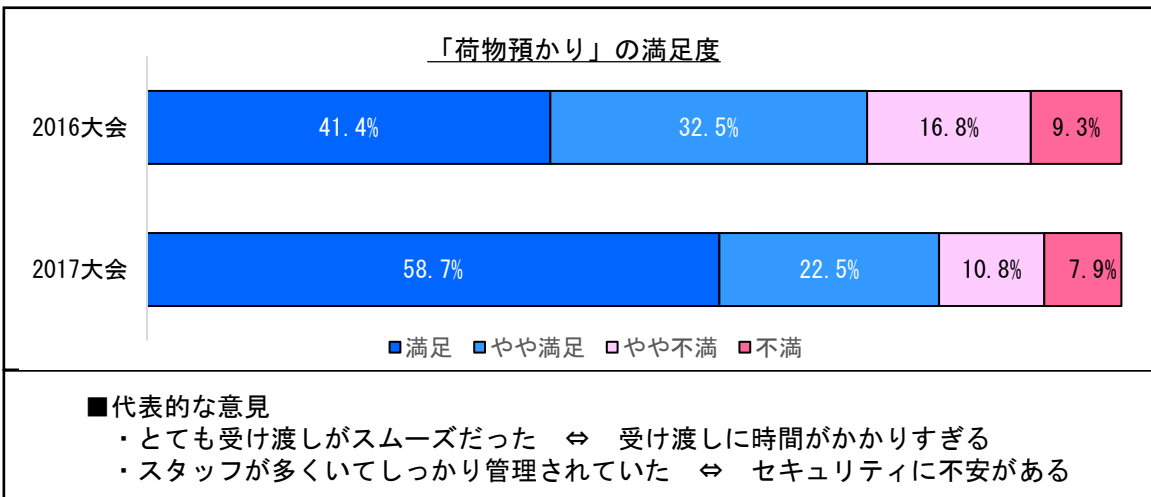
このように、皆様のお宿の確保については18大会では大幅に改善されつつありますが、私は心配性なのでここで書けないようなことも含め検討会議の皆さんには日々様々な「お願い」をし続けながら、これからも事案の最適化を追求してまいります。

あ、あと…今回は、2月中旬からのエントリー開始に先立ち、お宿のみの先行予約も予定しております。←これ、結構大事な情報ですから時期が来たら詳しくお知らせいたします(まずは今年もよろしく願いいたします)。



～ 第8回 「手荷物預かり問題」の解決について ～

これも「今回は完璧だ！」と自信をもって展開した「手荷物預かり所」ですが、17大会開催状況の第2回でも触れたとおり、大会当日は目論みに反してハーフ参加者の荷物引き取り時に長蛇の列が発生し、多くの方々にご迷惑をおかけしたのであります。



そこで、問題解決に向けて（上記第2回でも方向性をお知らせしておりましたが）荷物の引き渡し方法を変更（※各自が荷物をピックアップした後、順に出口で係員の照合を受けてから退出する）するとともに、防犯カメラを導入するなどセキュリティ対策にも配慮し、18大会では行列が発生させない体制を構築いたします。

なお、荷物を「室内で預かってほしい」というご意見を頂戴しております。我々としてもそうした場があればそのようにしたいのですが、近傍に「使える」場所がありません。そこで屋外ではありますが雨対策などを施して手荷物預かり所を展開してあります。至らぬ点、まだまだあろうかと存じますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。また、貴重品については事前送付する手荷物袋（70cm×50cm）ではお預かりできませんので、ご自身で管理いただきますようお願いいたします。

手荷物については「専用の手荷物袋に入らないものは預からない」、「すべて有料でお預かりいたします」という大会が見られるなか、大型スーツケースなど手荷物袋に入らないものなどについては、有料でヤマト運輸さんがお預かりする体制も整えておりますので、どうぞご活用ください（※18大会でヤマト運輸さんが提供する荷物関係のサービスの内容は、以下のとおりです）。

- ・手荷物袋に入らないものなど：有料（500円）
- ・会場から（空港など）主要アクセスポイントにお届け：有料（1000円）